

北海学園大学 人文学部

人文学部における 研究と学びについて



人文学部にはどんな先生がいるの？
どんな授業をしているの？
どうして今の研究テーマを選んだの？

人文学部における学びと研究について、
教員へのインタビューを通じてご紹介します。
そして、新しく始まるカナダ・レスブリッジ大学との
ダブル・ディグリー・プログラムについて、
大学の特徴や短期派遣学生の体験談も
含めて概要を説明します。



大学での研究、学びとは

— 現役学生が岡田一祐講師にインタビュー



ダブル・ディグリー・プログラム

(北海学園大学・レスブリッジ大学)



Interview

大学での研究、学びとは

—現役学生が岡田一祐講師にインタビュー—

人文学部日本文化学科 講師 岡田 一祐

2020 年から北海学園大学人文学部講師。専門は日本語学。著書に『ネット文化資源の読み方・作り方：図書館・自治体・研究者必携ガイド』（文学通信、2019 年）、『近代平仮名体系の成立：明治期読本と平仮名字体意識』（文学通信、2021 年）がある。

担当科目

- 1 年生「人文学基礎演習」＝大学での学びのスキルを指導
- 1～4 年生「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」＝日本語の仕組みを掴む
- 2 年生「人文学演習」＝現代に繋がる日本語の読解
- 3 年生「日本文化専門演習」＝現代に繋がる日本語の読解
- 3・4 年生「日本語学特論Ⅰ」＝近現代日本語上の研究トピックを探索
- 4 年生「卒業研究」＝卒業研究論文の指導

※「演習（ゼミ）」とは＝学生が主体的に参加する、少人数のクラス

インタビュー



人文学部2部
日本文化学科4年・
岡田ゼミ
伊藤 あゆ



人文学部2部
日本文化学科4年・
岡田ゼミ
高橋 美咲



岡田ゼミの演習では、16・17世紀のキリシタンが、当時の発音のローマ字で著したインソップ物語を読んでいる
(大英図書館蔵 Or.59.aa.1)

I(伊藤)：さっそくですが、先生は日本語がご専門だと思うのですが、いつから日本語に興味があるんですか？

O(岡田)：いつからかは覚えていませんね。私の専門は文字、とくに平仮名なのですが、子供のころから文字は好きで、そのまま大きくなってしまった感じです。

T(高橋)：大学生のときの専攻も文字だったんですか？

O：大学生のころは、古い活字に興味があり、近代初期の活字資料や、もともと古い日本語の活字である、キリシタンたちの作った活字について調べていました。たとえば、この『落葉集』という1603年に出版された本などがあります。

I&T：これ、見たことある！

O：この時代は、変体仮名(注)と今ではよばれるものがいっぱいあり、それをどうやって活字という形にしていっただかに興味がありました。そもそも二方は、活字を見たことがありますか？

I&T：活字ですか……？

O：北海道開拓の村にありますよ(注)。活字は、いまではすっかり使われなくなりましたが、ながらく重要な印刷技術でした。あらかじめ文字の原型を作り、それを大量に複製しておいて、いざ印刷するとき、必要な文字を出してきて、組み合わせて版画の版木のようにして、印刷するんです。ですから、仮名の種類がいっぱいあるということは、用意するものもいっぱいあるし、どれを用意したらいいかわからないということになりますよね。それがとても不思議だったんです。そこから紆余曲折を経て、いまの専門にたどり着きました。

T：先生のゼミでは文字をやらなきゃダメですか？

○：そんなことはありません。日本語に多少なりとも関心があれば是非来てください。

I：先生の学生のころはどんな学生でしたか？授業とかはどう取っていたんですか？

○：もともと研究者になりたいかったので、就活もあまりせずにのんびりと勉強していました。講義や演習は、取りたいもの、取っておくとよさそうなものしか取っていませんでしたが、ふとしたことが気になってどんどん調べていけるのは、いまの専門につながるようなことがらでした。正直、なにをやっているのか途方に暮れたレポート課題などもあったと思います。室町時代のそこまで名の知れていないお坊さんの事跡とか……。

T：思い出に残っている科目はなんですか？

○：わたしにはとても真似できないのですが、日本語の文法の歴史を教えてくださいました先生の講義はいまでも覚えていますし、ああいう丁寧な授業をしたいなと思います。言うは易く行うは難しですが。指導教員のゼミは、課題の量と発表時間の長さをいまでも覚えています。たいへんでしたが、そのとき、資料を丁寧に読み込む面白さを教えられました。みなさんにお伝えできているか心許ないのですが、演習の準備で調べてもらっている、『日本国語大辞典』（注）のひとつひとつの項目を読み解くだけでも、言葉の歴史を感じることができます。みなさんが演習で読んでいる資料も、文法は現代文に近いけど、読み方も語彙もいろいろ違うというところで、単純に一語一語の歴史だけでなく、その時代の言葉というものが、いまと比較できて面白い。もちろん、私も、調べさせられてるだけから、言葉の歴史を感じられるようになるまでは、多少時間がかかりましたけどね。

I：それがこのまえお出しになった本にどうつながっていくんでしょう？

○：先日、『近代平仮名体系の成立』（文学通信、2021年2月）という本を出版しました。これは、さきほどの変体仮名がどうやってなくなって、いまの平仮名ができあがったのかをまとめた本です。そういうことは、当然分かってるんだろうと思われるがちなのですが、案外細かいところがつながっていないことが多く、いろいろな資料を探し直して、具体的にしてみたものです。おふたりは、「いろは」って聞いたことありますか？

I&T：はい。

○：「いろは」というのは、江戸時代まで子供がまず平仮名を習うお手本でした。このお手本に使われた平仮名が今の平仮名につながっていくわけですが、あくまで文字の形を把握するためのものだったので、大きくなればこの仮名以外、つまり変体仮名も覚えなければならない。それが、明治時代に入って、義務教育がはじまり、1900年に、「この平仮名だけを覚えればよいですよ、それ以外は変体仮名ですよ」となったのが今の平仮名となるまでの流れなんですね。今まで、その辺が意外にもあやふやなことだらけだったので、整理してみたということです。

I：最後に、学生にひとこと。

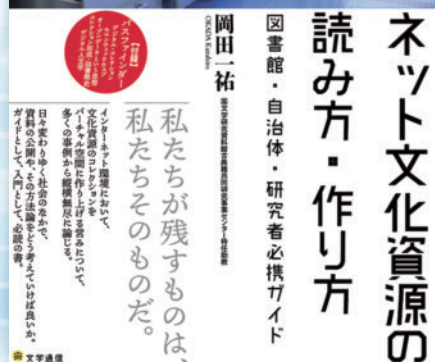
○：古いものであれ、新しいものであれ、資料を読むことを通じて、その時代の人の生き方とか、その時代の言葉とかいうものが、頭のなかで想像できるまで、丹念に調べ上げながら、一緒に読んでいけたらいいな、それが人文学部の学びかなと思っています。どうぞお待ちしております。

（2021年4月実施）

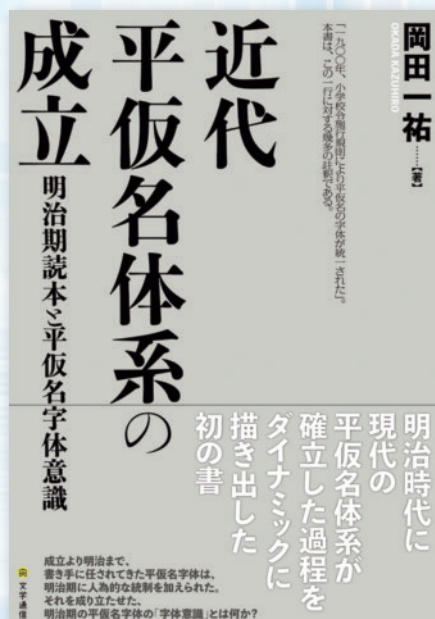
変体仮名…1900年に廃止された平仮名の形のこと。かつては、同じ音を表す平仮名が複数あり、蕎麦屋の暖簾などにその跡がある。

北海道開拓の村の活字…旧小樽新聞社社内に活字を使う印刷所がある。

『日本国語大辞典』…小学館から刊行された日本最大の言葉の歴史の辞書。いつから・どんな意味で使われてきたかが端的にまとめられている。



2019年の著『ネット文化資源の読み方・作り方』（文学通信）



新著『近代平仮名体系の成立』（文学通信、2021年）

ダブル・ディグリー・プログラム (北海学園大学・レスブリッジ大学)



レスブリッジ大学に長期留学し、両方の大学の卒業を目指すプログラムができました!

Double Degree Programとは?

北海学園大学で2年半学んだ後、カナダ・レスブリッジ大学に2年留学して同大学を卒業、帰国後に北海学園大学も卒業することで、5年間で2つの大学から(doubleの)「学士」(大学卒)の学位(degree)を取得できる制度です。

メリットその1: 北海学園大学でしっかり準備してから長期留学し、カナダの大学を卒業できる。

メリットその2: カナダ・日本両方の大学を卒業することで、その後の選択肢が広がる。

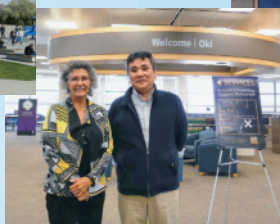
※注意! 英語「を」学びに行くのではありません。英語「で」専門分野を学んで卒業するプログラムなので、「行く前に」高度な英語力を身につける必要があります。

【学費・生活費】

- ・レスブリッジ大学の授業料は北海学園大学よりかなり割高なため、それを補助する制度の創設を計画しています。
- ・生活費は自己負担ですが、札幌で一人暮らしをするのと同じくらいです。

【いつ・どのように選抜されるのか】

- ・毎年秋に募集を開始し、選考のうえ、年末には派遣する学生を決定します。その後、準備を経て、翌年の夏に出発します。
- ・出願時の条件は、次の通り。
 - 英語力: TOEFL iBT 70またはIELTS 6.0以上 (TOEIC 750、英検準1級程度)
 - 既修得単位数: 1部は学期数×20単位、2部は学期数×15単位
 - GPA: 2.5以上
- ・出願時には、成績証明書、英語力の証明書の他に、志望理由書(英文で1,000語程度)を求めます。
- ・そのうえで、面接を行い、意欲と適性を確認します。



〈レスブリッジ大学〉

レスブリッジ大学は、1967年に創立されたカナダ西部アルバータ州レスブリッジ市の州立総合大学です。人文・社会科学、芸術学、演劇、音楽、経営、健康科学、理学、看護学部などの8つの分野の学部と大学院(修士課程・博士課程)で教育が行われ、150以上の多彩な学部課程と大学院課程のプログラムを有します。在学学生は約8700人で、世界中から留学生を受け入れています。北海道がアルバータ州と姉妹州の協定を結んでからレスブリッジ大と北海学園大との交流が始まり、1986年から学生・教員の研修・留学等による交流を行っています。

2019年度レスブリッジ大学短期(1年以内)派遣学生体験談

人文学部2部英米文化学科(2021年3月卒業) 清平 樹さん

私は2019年5月1日から12月21日までアルバータ州にあるレスブリッジ大学に交換留学をしていました。フィリピン出身のホストファミリーとカナダで生まれ育ったホストブラザーに加え、一度に二人のシェアメイト(ベトナム人と、入れ替わりでメキシコ人と韓国人)と過ごしたレスブリッジは異文化を知るには刺激的で素晴らしい環境でした。留学前にマイノリティになることで疎外感を感じるのではないかと考えていましたが、多種多様な文化背景を持った人が多くいるので全く問題ありませんでした。英語が第二言語であることに理解のある方も多くいたので、安心して練習することができました。

レスブリッジが比較的小さな街であることもあり、仕事と休みに緩急のある充実したスローライフを送っている人や精神的に豊かで人情味のある温かい人が多くいた印象です。札幌で生まれ育った私にとって慌ただしい都会の生活から一度離れることは貴重な体験であり、理想のライフスタイル像が見えてきたと思います。また、欧米的な直接的なコミュニケーションと日本の間接的なコミュニケーションを比較して両者の長所と短所を実感し、対人関係について深く考えるようになりました。

私の留学期間は約8か月という短い間でしたが、良い友人にも恵まれ、帰国したくないと思えるほど有意義な時間を過ごしました。カナダの自然や文化に触れながら日本ではできない貴重な体験ができるので、しっかりと目標を持って留学ができると考える人はぜひ挑戦してみてください。



文化を学ぶ 世界と繋がる



北海学園大学人文学部

日本文化学科(1部・2部) / 英米文化学科(1部・2部)

